メキシコ政治情勢（８月）

［概要］

【内政】

●１日、エル・フィナンシエロ紙が、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。ロペス・オブラドール大統領の支持率は、５６％で前月比－１％。

●２日、墨連邦検察総局（ＦＧＲ）が、ペニャ・ニエト前大統領を選挙犯罪、マネー・ロンダリング、違法な国際送金、及び不正蓄財の容疑で捜査している旨発表。

●４日、ゴメス公共教育相が、２０２３年メキシコ州知事選挙の国家再生運動（ＭＯＲＥＮＡ）候補に内定。

●１５日、公共教育相が交代。

●１８日、エンシナス内務省人権担当次官が、アヨツィナパ事件真相究明委員会の第一報告書を発表。

●１９日、アヨツィナパ事件の発生当時の連邦検察長官であったムリジョ・カラム氏がＦＧＲにより拘束。

●３１日、連邦議会上下両院の新執行部が選出。

【外交】

●２日、墨外務省が、国立自治大学（ＵＮＡＭ）及びファーウェイ社との間で、デジタル能力の開発促進に係る協定に署名。

●３日、ペルーを訪問中のエブラル外相は、カスティージョ・ペルー大統領と会談。

●４日、「ロ」大統領は、ペローシ米下院議長の訪台を受けた米中関係等につき発言。

●４～６日、「エ」外相は、ボリビアの独立記念日に際し、同国を公式訪問。

●７日、「ロ」大統領夫人及び「エ」外相が、ペトロ新コロンビア大統領就任式に出席。

●１３日、墨、亜、ボリビア及びエクアドルは、ペルーの国内情勢に係る共同声明を発出。

●１９日、「ロ」大統領は、ルーラ伯大統領候補への支持を表明。

●３０日、太平洋同盟協力フォーラムが開催。日本もオブザーバー国として参加。

【内政】

１　世論調査結果

（１）１～２日、エル・フィナンシエロ紙が、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。「ロ」大統領の支持率は５６％で前月比－１％。不支持率は４０％で前月比±０％。

（７月８～１０日及び２２～２４日に、全国の有権者１，１００名を対象に電話で調査を実施。誤差±３．０％。＊を付した質問は、７月２２～２４日に５００名を対象に実施。）

ア　「ロ」大統領の取組を支持するか。

・支持する：５６％（前回（６月、以下同じ）５７％）

・支持しない：４０％（前回４０％）

イ　以下の大統領に期待される特質について「ロ」大統領を好評価するか。＊

・誠実さ：５８％（前回５４％）

・リーダーシップ：５２％（前回５０％）

・結果を出す能力：４７％（前回４１％）

ウ　ワシントンＤＣでの「ロ」大統領とバイデン米国大統領の首脳会談は、如何なる結果であったと思うか。＊

・良い結果：３９％

・悪い結果：１４％

・重要性を持たなかった：３６％

エ　墨米加新協定（ＵＳＭＣＡ／Ｔ－ＭＥＣ）に係る「ロ」政権の対応につき、如何に評価するか。＊

・とても良い、又は良い：４４％

・とても悪い、又は悪い：２９％

オ　エネルギー分野で、政府に如何なる行動を取ってほしいか。＊

・ＵＳＭＣＡを遵守し、投資を誘致してほしい：３９％

・貿易上の制裁があろうとも、エネルギー主権を守ってほしい：４９％

カ　以下の政府の事業を如何に評価するか。

①フェリペ・アンヘレス（メキシコ市新国際）空港

・とても良い、又は良い：５４％

・とても悪い、又は悪い：２５％

②ドス・ボカス製油所

・とても良い、又は良い：５３％

・とても悪い、又は悪い：２１％

③マヤ鉄道

・とても良い、又は良い：４９％

・とても悪い、又は悪い：３４％

キ　最近、メキシコの経済状況についてどう感じるか。＊

・とても良い、又は良い：２６％（前回（４月、以下同じ）１２％）

・とても悪い、又は悪い：５５％（前回５５％）

ク　最近、（回答者）自身の経済状況についてどう感じるか。＊

・とても良い、又は良い：３２％（前回（５月、以下同じ）３３％）

・とても悪い、又は悪い：４２％（前回４９％）

ケ　最近、（回答者）自身の労働状況及び見通しについてどう感じるか。＊

・とても良い、又は良い：４２％（前回４４％）

・とても悪い、又は悪い：３１％（前回３４％）

コ　各分野における「ロ」政権の取組を如何に評価するか。＊

①ワクチン接種

・とても良い、又は良い：７２％（前回（６月、以下同じ）６９％）

・とても悪い、又は悪い：１７％（前回１９％）

②経済

・とても良い、又は良い：４１％（前回３５％）

・とても悪い、又は悪い：４７％（前回５０％）

③汚職対策

・とても良い、又は良い：３２％（前回３４％）

・とても悪い、又は悪い：５０％（前回５０％）

④治安対策

・とても良い、又は良い：２８％（前回２１％）

・とても悪い、又は悪い：６２％（前回６７％）

サ　最近、インフレ及び価格上昇についてどう感じるか。＊

・とても良い、又は良い：９％（前回７％）

・とても悪い、又は悪い：８５％（前回８３％）

シ　メキシコの現在の主要課題はいずれか。

・治安の悪さ：４６％（前回４８％）

・経済、失業：２６％（前回２５％）

・新型コロナウイルス、保健：５％（前回４％）

ス　総じて、メキシコは良い道を辿っているか、悪い道を辿っているか。＊

・良い道を辿っている：３９％（前回３１％）

・悪い道を辿っている：３７％（前回３８％）

（２）１５日、エル・フィナンシエロ紙は、シェインバウム・メキシコ市長の支持率等に係る世論調査結果を発表。「シェ」市長の取組を支持するとの回答が４９％、支持しないとの回答も４９％であった。また、「シェ」市長が２０２４年大統領選挙の国家再生運動（ＭＯＲＥＮＡ）候補となった場合、彼女に投票するかとの質問に対し、投票するとの回答が３７％、投票しないとの回答が５４％であった。

（３）１６日、エル・フィナンシエロ紙は、２０２４年メキシコ市長選挙に向けた世論調査結果を発表。本日がメキシコ市長選挙の投票日であった場合、いずれの政党に投票するかとの質問に対し、ＭＯＲＥＮＡが３９％、国民行動党（ＰＡＮ）が２３％、制度的革命党（ＰＲＩ）が１０％であった。連合毎では、与党連合（ＭＯＲＥＮＡ、労働党（ＰＴ）、緑の党（ＰＶＥＭ））が４６％、野党連合（ＰＡＮ、ＰＲＩ、民主革命党（ＰＲＤ））が３９％であった。

（４）２９日、エル・フィナンシエロ紙は、２０２４年大統領選挙に向けた世論調査結果を発表。本日が大統領選挙の投票日であった場合、いずれの政党に投票するかとの質問に

対し、ＭＯＲＥＮＡが４７％、ＰＡＮが１５％、ＰＲＩが１５％であった。連合毎では、与党連合が５２％、野党連合が３５％であった。また、ＭＯＲＥＮＡの大統領候補となってほしい人物はとの質問に対し、回答者全体では「シェ」市長との回答が２８％、エブラル外相との回答が２４％、モンレアル上院政策調整委員長との回答が１２％、ロペス内相との回答が１０％で、ＭＯＲＥＮＡ支持者では「シェ」市長が３３％、「エ」外相が３２％。「モ」委員長が１２％、「ロ」内相が９％であった。

（５）３１日、レフォルマ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。「ロ」大統領の支持率は６１％、不支持率は３３％。現在、国が抱える主要課題は、治安との回答が４８％で最多、「ロ」大統領の組織犯罪対策方法については、高評価が２１％、低評価が４８％であった。また、２０１８年大統領選挙で「ロ」候補（当時）に投票したと回答した者のうち、大統領選挙で再度「ロ」候補に投票し得るかとの質問に「はい」と回答した者は６８％にのぼった。

２　ペニャ・ニエト前大統領に係る複数の犯罪容疑での捜査

２日、連邦検察総局（ＦＧＲ）が、ペニャ・ニエト前大統領を選挙犯罪、マネー・ロンダリング、違法な国際送金、及び不正蓄財の容疑で捜査している旨発表した。７月にゴメス大蔵公債省金融インテリジェンス・ユニット（ＵＩＦ）長が、「ペ」前大統領をマネー・ロンダリングの容疑で捜査している旨を大統領定例早朝記者会見で発言したところ、その直後、「ペ」前大統領が所有していたスペインの豪邸が売却に出された旨等が報道された。

３　ゴメス公共教育相のＭＯＲＥＮＡメキシコ州知事候補内定

４日、ＭＯＲＥＮＡは、２０２３年６月のメキシコ州知事選挙の同党公認候補を内定する世論調査結果を発表。ＭＯＲＥＮＡの党内委員会が実施した世論調査（「ゴ」候補が３７．４％）、及び党外の世論調査実施会社２社（「ゴ」候補が３７．２％及び３７．１％）の調査の結果を受け、「ゴ」公共教育相が、２０１７年選挙時に続き２度目のＭＯＲＥＮＡメキシコ州知事候補に内定した。

４　公共教育相の交代

１５日、「ロ」大統領は、メキシコ州知事選挙に立候補するため辞任したゴメス前公共教育相の後任に、小学校教諭として教員労働組合での経験が豊富なレティシア・ラミレス女史を指名した。

５　アヨツィナパ事件真相究明委員会の第一報告書が発表

１８日、エンシナス内務省人権担当次官が、アヨツィナパ事件（注：２０１４年９月２６日、ゲレロ州アヨツィナパにある教員養成学校の生徒４３名が犯罪組織による暴力を受けた後、失踪した事件。陸海軍や連邦、地方警察等、当時の当局が隠蔽に関与した可能性

が国内外で大きな注目を集め、ペニャ・ニエト前政権への支持率を急激に低下させた。なお、アヨツィナパ事件に関する捜査を進めることは、ロペス・オブラドール大統領が就任日に発表した「１００の公約」の一つ。）の真相究明委員会の第一報告書を発表。①４３人の学生の失踪は、Guerreros Unidos（注：ゲレロ州の犯罪組織）及び様々な当局職員が共謀した国家犯罪であった旨、②暴力行為の後、失踪させるよう命令が下され、（失踪した）学生が生きているとする根拠は無い旨、③事件発生当時の連邦及び州当局の最高幹部に不作為及び過失があり、真実からかけ離れた結論を導くための事実の改ざんが行われた旨、④同地域の軍司令官は、軍人 Julio Cesar Lopez Patolzin 氏（注：今次報告書において初めて発表された、４４人目の失踪者。ゲリラ的思想のグループ等を養成するとされていた同教員養成学校には、同軍人が潜入していた。）を保護・捜索するための行動を取らなかった旨が発表された。

６　アヨツィナパ事件発生当時の連邦検察長官の拘束

１９日、アヨツィナパ事件の強制失踪、拷問、及び司法行政に反する罪の容疑で、同事件発生当時の連邦検察長官であったムリジョ・カラム氏がＦＧＲにより拘束された。その後、「ム」氏が逃亡するおそれがあるとして、予防拘束が発出され、同氏は収監された。また、組織犯罪、強制失踪、拷問、殺人等の容疑で、当時のゲレロ州軍司令官、ゲレロ州警察、同州内各市警察等の計８３名に対する逮捕令状が発行された。

７　連邦議会上下両院の新執行部の選出

３１日、9月１日から始まる連邦議会秋会期に向け、上下両院の新執行部が選出された。上院議長は、モンレアル上院政策調整委員長に近いアルメンタ議員（ＭＯＲＥＮＡ）、下院議長は、フォックス政権期（２０００～０６年）に内相を務めたクリール議員（ＰＡＮ）が選出された。

【外交】

１　ファーウェイ社とのデジタル能力開発促進協力

２日、墨外務省、メキシコ国立自治大学（ＵＮＡＭ）及びファーウェイ社は、ＵＮＡＭで開催された「ＡＩフォーラム」において、「メキシコにおけるデジタル能力の開発促進のための提携趣意書」に署名した。右により、新技術プロジェクトに関するメキシコ人研究者の募集、応用数学・システム研究所の新本部建設等の行動が調整される。

２　エブラル外相のペルー訪問

３日、ペルーを訪問中の「エ」外相は、カスティージョ同国大統領と会談。「エ」外相は、１１月にメキシコで開催される太平洋同盟首脳会合に「カ」大統領を招待した。また、両大統領は、両国の企業家との会合を主催し、両国間の観光、投資、及び貿易を拡大するこ

とで合意した。墨企業の対ペルー投資額は約１６０億ドルで、通信、製薬、食品、鉱業、金融サービス、保険等の分野で数千人を雇用している。

３　ペローシ米下院議長の訪台に係る「ロ」大統領の発言

４日、「ロ」大統領は、定例早朝記者会見で、「ペ」米下院議長の訪台を受けた米中間の緊張に係る墨政府の立場を問われたところ、戦争による対立を避け、対話を通じて合意を求めるべきである旨、現在の世界は、少なくとも５年間の休戦に合意し、対立や挑発を止めるべき状況にある旨等を述べた。

４　「エ」外相のボリビア訪問

４～６日、「エ」外相は、ボリビアの独立記念日に際し同国を訪問し、マイタ外相と会談。同会談では、リチウムの分野における科学技術知識の交流を促進するため、二国間の対話を強化する旨が強調された他、ラ米カリブ諸国共同体（ＣＥＬＡＣ）加盟国として、地域統合を推進し、同アジェンダに優先的に取り組む意思が表明された。また、両外相は、米州諸国の効果的な統合に向けて、米州機構（ＯＡＳ）のあり方について検討を深める必要性に合意した。「エ」外相は、「マ」外相とともにウユニ塩湖を訪問し、メキシコにはボリビアと同様、リチウムが大量に埋蔵されている旨、その大きな可能性を活かすべき旨述べた。

５　「ロ」大統領夫人及び「エ」外相のコロンビア新大統領就任式出席

７日、ベアトリス「ロ」大統領夫人及び「エ」外相は、コロンビアのペトロ新大統領の就任式に出席。コロンビア滞在中、「エ」外相は、ＥＵ、コスタリカ、エクアドル、パレスチナ、及びペルーの出席者と会談を行った。ＥＵの代表として出席したポルトガルのサントス外相とは、墨ＥＵ現代化グローバル協定の批准を進展させ、ＣＥＬＡＣ・ＥＵ閣僚会合を再開することに合意した。エクアドルのラッソ大統領とは、同国の太平洋同盟加盟への支持を確認。ペルーのボルアルテ副大統領及びロドリゲス外務大臣とは、リチウム、エネルギー、航空宇宙産業等の分野で二国間協力を推進するため、作業部会を設立すること、及び１１月の首脳会合に向け、太平洋同盟として活動を継続することを確認した。

６　ペルー国内情勢に係る墨、亜、ボリビア及びエクアドル共同声明

１３日、墨、亜、ボリビア及びエクアドルの各国政府は、ペルーの国内情勢に係る共同声明を発出。声明は、ペルーにおける政治的緊張を前に、同国のすべての機関及び政治勢力に対し、同国の現状を克服する手段としての政治的対話を強化するよう呼びかけた。また、正当に構成されたペルー当局との連帯を改めて表明し、ペルー国民が民主的な共存を強化する方法を見つけることができるよう祈念すると記された。

７　「ロ」大統領によるルーラ伯大統領候補への支持表明

１９日、「ロ」大統領は、オンラインで参加したラ米カリブ諸国共同体（ＣＥＬＡＣ）主催の「多様性の中の連帯フォーラム」において、１０月に行われるブラジル大統領選挙につき、ルーラ候補（元大統領）への支持を表明。墨の内政不干渉及び民族自決原則を強調しつつも、ブラジル国民の指導者である「ル」候補への共感を隠すことはできない旨述べた。

８　太平洋同盟協力フォーラムの開催

３０日、太平洋同盟協力フォーラムが開催。４テーマ（①防災リスクマネジメント、②環境、③ジェンダー、④若者と観光に特にフォーカスした経済回復）に係る協力について話し合われた。太平洋同盟のオブザーバー国である日本（小林外務省中南米局長）、韓国、及び中国から挨拶があった。

（了）